

1年次のカリキュラムは、文系や理系を問わず一般教養として幅広い科目を履修するため、暗記することが多くなるので自習では復習を欠かさず行っていました。大変でしたが、多様性に満ちた視野を持つことができるので自分の得意不得意が分かり、2年次での文理選択をあまり迷いなくできたと思います。授業を受けていて不安がある教科は課外授業で補えるので安心してついていくことが出来ました。また高校での英語は、中学とは格段にレベルが上がります。したがって、単語や文法、英会話など予習復習を毎日行いました。先生方が週に1回、単語テストを実施してくださったおかげで、学習ペースがつかみやすかったです。受験勉強では、自習室や進路指導室をたくさん使いました。進路指導室は、数多くの赤本や問題集が充実しているので大いに活用できました。また、自分の進路の悩みなども進路指導の先生に相談して、将来の自分をより明確にし、頑張る糧となりました。

研修旅行では、行き先がカナダ、シンガポール、沖縄とある中で私はシンガポールを選び、初めてホームステイを経験しました。英語圏に住んでいる人々に自分の英語力が通用するのか不安もありましたが、楽しみでもありました。以前の私は消極的で自分から人に話しかけるのがあまり得意ではありませんでしたが、積極的にコミュニケーションをとっていくと、相手の意見を尊重しながら自分の意思を伝える大切さを改めて実感しました。加えてこの旅行では、シンガポールの数多くの観光地を巡ることができました。日本とあまり変わらない近代的な街並みであるのに、日本の都市部では見ることのできない自然と都市が融合している景観であったり、多民族国家であるので多様な文化が小さな面積の国で見事に調和されていたりする様子は、とても見応えがありました。また記念碑を訪れた際に、かつて日本軍が占領していた時に肅清を行っていたという悲しい事実を知りました。このようなことを二度と繰り返さぬよう、記念碑の前で平和とグローバル化の進展を願いました。

茨城高校はきれいな校舎や充実した施設が設けられているので、恵まれた環境で勉強や部活に打ち込む事ができます。特に、静かな自習室は、朝は7時から、放課後は19時まで開いているので快適な空間で熱心に勉強することが出来ました。また、中学・高校合わせて多くの先生がいらっしゃるので質問もしやすかったです。一貫生とは文化祭やクラスマッチなどの行事を通して仲良くなれましたが、一番仲が深められたのは部活動だと思います。一つの同じ目標に向かって一緒に努力していくことは、信頼も生まれます。兼部もできるので、様々な人と交流して良かったと思いました。

大学では、薬剤に関する専門技術を学び、多くの同じ目標に向かう人達とふれあって考えを深め自分自身を成長させ、薬の可能性を引き出す研究をしていきたいです。また、JRC部で培ったボランティア活動も続けていきたいと思っています。大学生になることで今までよりも行動範囲が広がります。高校生でのボランティアは地元での活動が多く、限りがあったので、これからは海外での活動など、よりグローバルな分野で助けになりたいと思っています。

茨城高校の建学の精神は「報恩感謝」です。これについて創設者の飯村丈三郎先生の師は、「世の中は恩と恩の交換で成り立っている。支えられていることに気づき感謝し、その恩に報いるべく生きる。」と説明されています。私は、茨城高校の先生方や仲間たちから頂いたたくさんの恩に感謝し、医薬品の創製に携わる者として高い倫理観と使命感を持った研究者となるべく、これからも精進していきたいです。そして、その恩を人類の生命や健康を守るという社会貢献で還元していきたいと思っています。